

全国小売業万引被害実態調査

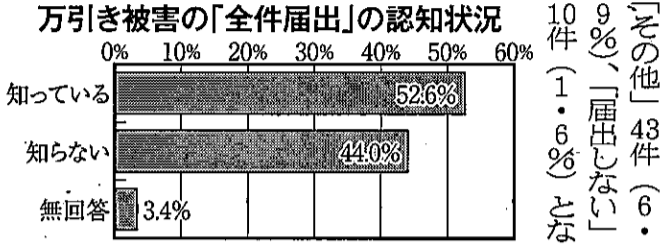
全国万引き犯罪防止機構へ上

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構はこのほど「第8回全国小売業万引被害実態調査」結果をまとめた。今回の回答企業は625社(前回300社)となり、業態数ではスーパー、百貨店、ドラッグストア、その他専門店、ホームセンター・カー用品などが多い。主な項目では、「万引は犯罪」であることから「全件届出」等について、認知状況は「知っている」が52.6%と半数を超え浸透しつつあるが、44%が「知らない」と答えていることも注目。本紙では、Q&Aの同調査結果を上・下で掲載。

■万引犯罪発見後の処理について

Q万引対策を全社的に担当している部門
A万引対策の担当部門は、「店舗」280件(44.8%)、「本部」278件(44.5%)、「警備部門」42件(6.7%)、「その他」26件(4.2%)となっており、「店舗」「本部」で全体の約9割を占めている。

Q全件届出書類の簡略化について
A万引き被害の「全件届出」の認知状況



Q警察に通報した後、書類作成などでの警察の対応時間について
A書類作成などでの警察の対応時間については、「30分〜1時間」225社(40.8%)、「1〜2時間」157社(28.5%)、「2〜3時間」70社(12.7%)、「3時間以上」41社(7.4%)、「30分以下」28社(5.1%)、「2日以上」4社(0.7%)となっている。

Q昨年比去年警察の書類作成に要する時間の変化
A昨年比去年警察の書類作成に要する時間の変化については、「警察の対応時間は変わらない」243社(44.1%)、「1〜2時間」185社(33.6%)、「警察の対応時間は短くなった」95社(17.2%)、「警察の対応時間は長くなった」7社(1.3%)となっている。

Q警察の対応時間について、どれ具合の時間が「負担」と感じるか
A負担と感じる時間は、「1〜2時間」255件(46.3%)、「30分〜1時間」194件(35.2%)、「2〜3時間」54件(9.8%)、「30分以下」20件(3.6%)、「3時間以上」9件(1.6%)となっている。

Q警察の手続きで手間と感ずるものについて
A警察の手続きで手間と感ずるものについて、「被害金額の大きい」100件(21.3%)、「初犯か再犯か」85件(18.1%)、「未就学児か否か」67件(14.3%)、「未成年か否か」56件(11.9%)、「その他」44件(9%)、「単独犯か複数犯か」34件(7.2%)、「近所の方や顔みしりの方」22件(4.7%)となっている。

【全体届出・業態別比較表】(上位10業態のみ)

業態別	回答企業数	知っている	知らない	無回答
全体	625	52.6	44.0	3.4
スーパー	209	59.3	35.9	4.8
百貨店	57	61.4	35.1	3.5
ドラッグストア	55	60.0	36.4	3.6
その他専門店	47	34.0	66.0	—
ホームセンター・カー用品	45	37.8	57.8	4.4
楽器・CD・レンタル	32	56.3	43.8	—
婦人服・子供服	24	16.7	79.2	4.2
コンビニ・ミニスーパー	24	66.7	33.3	—
書籍・文具	15	86.7	6.7	6.7
生活協同組合	15	80.0	13.7	6.7

Q直近での万引犯罪の原因と考えられるもの
A万引犯罪の原因については、「万引に対する犯罪意識の欠落(ゲーム感覚での犯行など)」411件(65.8%)、「店舗の大型化による従業員1人当たりの守備範囲の拡大」289件(46.2%)、「失業者の増加など長引く経済不況」223件(35.7%)、「窃盗癖のある人の犯行が増加」215件(34.4%)、「ネットオークションで盗品販売の監視」100件(21.3%)となっている。

Q万引犯罪の防止のために実施している従業員教育
A実施している従業員教育としては、「朝礼等で万引防止をテーマに取り上げさせている」252件(40.3%)、「万引防止マニュアルを作成・配置させている」199件(31.8%)、「その他」94件(15.0%)、「ロス費用の発生状況を人事評価に反映させている」80件(12.8%)、「外部講師によるセミナーを活用している」19件(3.0%)、「万引防止実施訓練を行っている」11件(1.8%)となっている。

Q万引犯罪の捕獲にかけた費用の損害賠償請求
A費用の損害賠償請求については、「損害賠償請求はしていない」545件(87.2%)、「損害賠償請求をしている」52件(8.3%)となっている。

Q損害賠償請求による万引件数への影響について
A万引件数への影響については、「損害賠償請求をしても、万引件数は依然と変わらない」42件(8.8%)、「損害賠償請求をすることにより、万引の件数が減った」9件(1.7%)となっている。

Q今後の損害賠償請求の検討について
A今後の損害賠償請求の検討については、「損害賠償請求は考えていない」414件(76.0%)、「万引犯人に対する損害賠償請求の導入を検討している」121件(22.2%)となっている。

Q万引に関して地域社会とタイアップしているもの
A地域社会とタイアップしているものについては、「生徒の職場体験を受け入れている」275件(44.0%)、「万引防止のポスターを店頭に貼っている」246件(39.4%)、「特にタイアップしてない」157件(25.1%)、「制服警察官の店内巡回を受け入れている」153件(24.5%)、「地域の万引防止連絡会等に参加している」145件(23.2%)の順。